
多自然居住地域における
自律可能な産業の創出とネットワーク化に関する研究

報 告 書

平成17年4月
カイニヨイズム研究会

も く じ

序 章. 概 要

序-1.研究会の主旨	序-1
序-2.今年度の研究の背景	序-1
序-3.参加メンバー	序-1
序-4.H16 年度活動	序-2
序-5.H16 年度活動フロー	序-3

第 1 章. くるま座会議

1-1.くるま座会議開催主旨	1-1
1-2.開催概要	1-1
1-3.内容	1-2

第 2 章. エコプライドの育成

2-1.取り組みの主旨	2-1
2-2.取り組み概要	2-1
2-3.取り組み内容	2-1
2-4.考察	2-5

第 3 章. 伝統的家屋の事例調査

3-1.調査の主旨	3-1
3-2.調査概要	3-1
3-3.調査結果	3-1
3-4.考察	3-8

第 4 章. 全国田園空間シンポ in あきた

4-1.全国田園空間シンポジウムとは	4-1
4-2.秋田大会視察の目的	4-1
4-3.開催概要	4-2
4-4.内容	4-2
4-5.まとめ	4-6

第5章. 台風23号による倒木被害について

5-1.概要	5-1
5-2.被害状況	5-1
5-3.被害に対する対応状況	5-2
5-4.倒木被害から学んだこと	5-3

第6章. 今年度事業を終えて

6-1.全てはツアーの見直しから	6-1
6-2.良かった点	6-1
6-3.うまくいかなかった点	6-2
6-4.これから	6-2

資料1. くるま座会議

資1

資料2. 全国田園空間シンポ in あきた

資2

資料3. その他

- ・実施企画書
- ・くるま座会議話題提供用講師資料
- ・(社)北陸建設弘済会中間報告会用資料

資料編

序 | 概要

1. 研究会の主旨

カイニョイズム研究会は、小さなことから、できることから、楽しみながら、カイニョイズムを実践する会であり、平成14年7月から活動を開始した。

カイニョイズムとは、散居村とそれをとりまく地域資源（歴史、生活文化、産業、など）を保全するだけでなく、新しい価値と意味と物語を付けて活用し、後世に伝えるという動きである。

散居村の景観やカイニョ（屋敷林）を残すことはもちろん大事であるが、カイニョイズムを実践することによって、散居村を取り巻くライフスタイル自体を楽しく演出し、「散居の砺波に住まう老若男女が日々の生活に生きがいと役割をもっていきいき生き、誇りを持って住み続けられる地域づくり」を実現していきたいと考えている。

2. 今年度の研究の背景

研究会では、これまで平成14年と15年に散居村景観や砺波の地域資源を紹介する体験ツアーを開催した。また、木質系バイオマスエネルギーであるペレットを使ったペレットストーブの視察などを行ってきた。体験ツアーの開催後は、ボランティアであることに課題を感じ、景観保全についてもきれいと愛でるだけでなく、産業として成り立たせる必要性を会員が共通認識としてもっていた。そこで、今年度は、自律可能な産業の創出の可能性とそれらを砺波平野でネットワークし、雇用の創出等につなげることができないか、研究を行いたいと考えた。

3. 参加メンバー

研究会会員は現在9人で、年齢は20代半ばから30代前半である。いずれも砺波平野の出身であり、建築や行政の仕事や日常生活を通じて、散居村の景観の保存や伝統的家屋の活用について考えている。

氏名	勤務先	他所属団体
大橋 大輔		となみ青年会議所・建築士会
役川 三重子	川金(温泉旅館)	
金岡奈穂子	(株)計画情報研究所	カイニョ倶楽部
高田 康弘	(株)新日本建機	となみ青年会議所
高多 康弘	砺波農地林務事務所	カイニョ倶楽部
土山 稔	シュウコーポレーション	
野村 和則	砺波市役所	カイニョ倶楽部
藤井 詩子		カイニョ倶楽部
水木 功	みずき建築設計事務所	建築士会・建築学会

4 . H16 年度活動

研究会では、平成14年と15年に散居村景観や砺波の地域資源を紹介する体験ツアーを開催した。

年	月	日	内 容	場 所
16	4	13	N01 カイニョイズム研究会 打合せ (今年の活動の意見交換・くるま座会議準備)	高田事務所
16	4	30	N02 カイニョイズム研究会 打合せ (くるま座会議準備)	高田事務所
16	5	14	N03 カイニョイズム研究会 打合せ (くるま座会議準備)	高田事務所
16	5	20	くるま座会議 会場下見・準備	かいによ苑
16	5	22	くるま座会議	かいによ苑
16	5	23	くるま座会議	かいによ苑
16	6	15	FM となみ「となみ野文化散歩」ラジオ出演 (再放送 22日・29日)	FM となみ
16	6	18	N04 カイニョイズム研究会 打合せ (くるま座会議 ふりかえり)	高田事務所
16	6	22	N01 カイニョイズム研究会 打合せ (くるま座会議 ふりかえり・今後の活動について)	高田事務所
16	6	26	井波・空家の視察	井波町内
16	6	27	地球映像ネットワーク パン焼き釜作りの手伝い	頼成山荘
16	6	27	地球映像ネットワーク パン焼き釜作りの手伝い	頼成山荘
16	9	2	N05 カイニョイズム研究会 打合せ (伝統的家屋活用事例調査)	高田事務所
16	9	9	N06 カイニョイズム研究会 打合せ (素掘り小川計画・伝統的家屋活用事例調査)	マンデリン
16	9	11	N07 カイニョイズム研究会 打合せ (素掘り小川測量・伝統的家屋活用事例調査) 地球映像ネットワーク 小屋作り手伝い	高田家の庭 頼成山荘
16	10	14~15	全国田園シンポジウム in あきた視察	秋田県
16	10	17	小川 えざらい(用水・排水溝清掃)	高田家の庭
16	10	20	台風23号が砺波平野を通過	
16	11	6	N08 カイニョイズム研究会 打合せ (中間発表会 準備)	高田事務所
16	11	30	N09 カイニョイズム研究会 打合せ (中間発表会 準備)	高田事務所
16	12	9	N010 カイニョイズム研究会 打合せ (中間発表会 準備)	高田事務所
16	12	10	北陸建設弘済会 中間発表会	新潟市内
17	1	29	N011 カイニョイズム研究会 新年会	レストラン M2
17	2	20	N012 カイニョイズム研究会 打合せ	高多家・ふくろう
17	3	13	N013 カイニョイズム研究会 打合せ	みずき事務所
17	3	24	N014 カイニョイズム研究会 打合せ	高田事務所

太字：主な事業

5 . H16 年度活動フロー

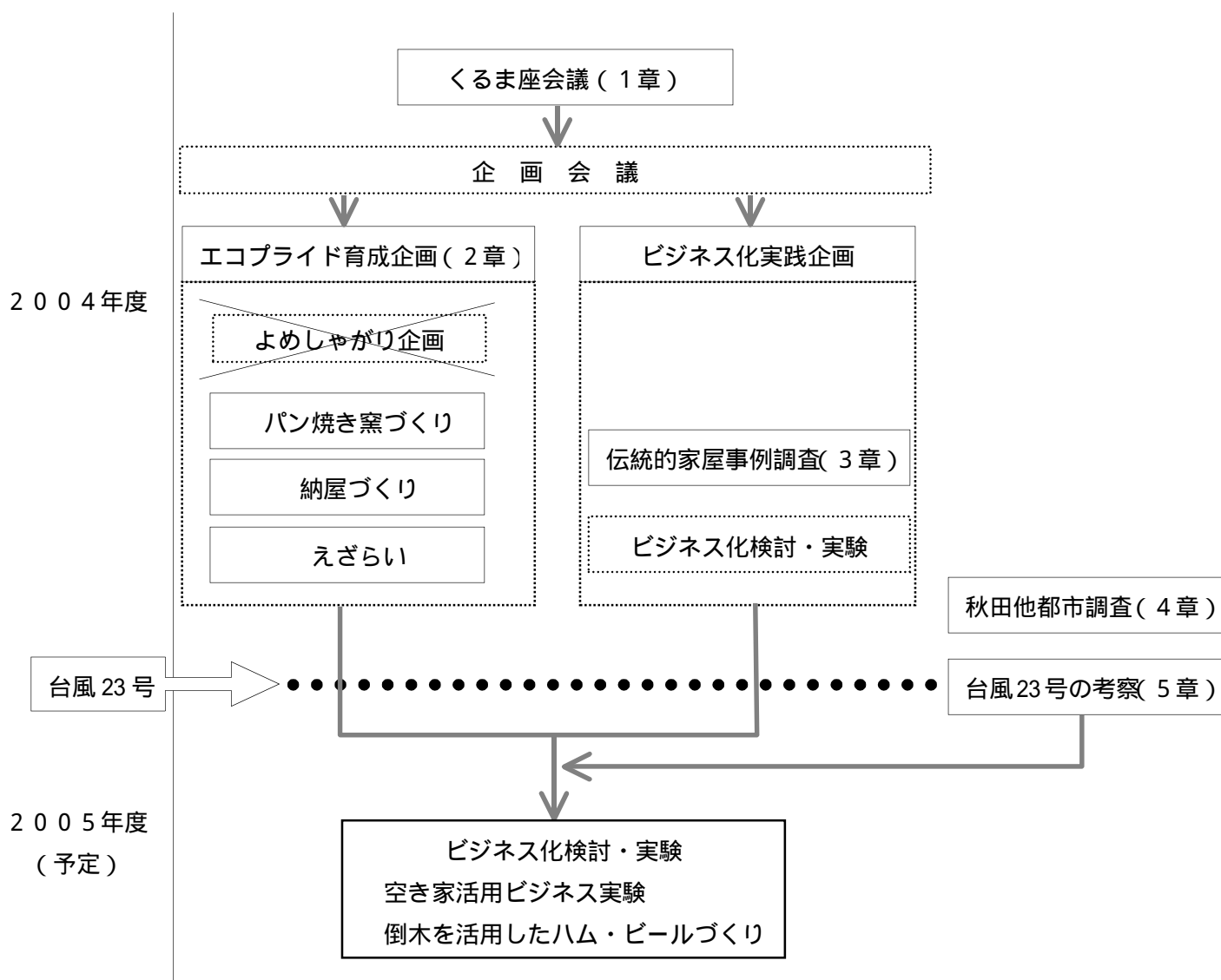
以下に平成 16 年度の活動フローを示す。

今年度は、砺波平野と同じく散居集落を形成している斐川平野を研究者である作野先生（島根大学助教授）を招き、市民を巻き込み開催したくるま座会議を契機として、散居景観の保全には、会員を含め、市民のエコプライドの育成が必要であること、ビジネス化を念頭においた活動が必要であるという認識を強くした。これに基づき、エコプライド育成、ビジネス化実践企画の2つを柱として活動を行った。

また、他都市調査として、砺波平野と同じく「田園空間整備事業」（農林水産省の事業）を行っている秋田市への視察を行った。

活動を続けている中、砺波平野に接近した台風 23 号（平成 16 年 10 月 20、21 日）により、1 万 7 千本の屋敷林を構成する樹木が倒れ、砺波平野の景観に甚大な被害があった。この台風の被害により、砺波平野の景観の保全が、岐路に立たされた。倒木を活用して何かできることを急遽企画しようということで、倒木をチップ化して、ハムを作るという企画を立案中である。これは、エコプライドの育成とビジネス化に繋がればよいと考えている。

また、来年度は、伝統的家屋の活用事例調査の結果を受けて、空き家を貸すなどのビジネス化実験に繋がりたいと考えている。



1. くるま座会議開催主旨

カイニョイズム研究会は、「砺波の散居村の景観や住まい方を後世に生きた形で伝えよう」という趣旨のもとに、これまでに、カイニョの体験ツアー（カイニョイズム体験ツアー）を過去2回行った他、伝統的家屋の見学会やペレットストーブの見学会などを行ってきた。しかし、今後さらに効果のある体験ツアーを実施したり、景観の保全に即効性の高い活動を行うためには、これまでの体験ツアーを振り返り、体験ツアーの景観保全に対する役割や、今後の体験ツアーのあり方について勉強する必要があると考えた。そこで、砺波平野と同じ散居集落である斐川平野の研究をされている島根大学の作野先生を砺波平野に招き、景観保全活動や体験ツアーの景観保全に対する意義等について意見交換を行いたいと考えた。

また、研究会メンバーだけでなく、参加者を募るシンポジウムを開催することにより、地域住民との交流を通じて、地域住民が屋敷林の価値などを再認識する機会にしたいと考えた。

2. 開催概要

開催日	平成 16 年 5 月 22 日（土）：作野先生と研究会の学習会		
	平成 16 年 5 月 23 日（日）：一般市民参加者を募集し、基調講演、意見交換会		
開催場所	平成 16 年 5 月 22 日（土）：砺波平野、高田家		
	平成 16 年 5 月 23 日（日）：カイニョ苑		
内容	内 容	時 間	備 考
	5 月 22 日（土）	作野先生の移動	8:00 9:20 10:00 11:00 11:00 12:30
	昼食	12:30 13:30	昼食（鮎の炭火焼き）
	作野先生を砺波平野に案内（屋敷林のある伝統的家屋訪問）	13:00 17:00	閑乗寺の展望台 杉森邸 入道邸 温泉
	先生と研究会メンバーのくるま座会議	19:00 21:00	
	懇親会	21:00	先生は高田家で民泊
5 月 23 日（日）	朝食	8:30 頃～	
	くるま座会議 カイニョイズム - 散居のとなみとどうつきあう？	10:00～	
	研究会会長あいさつ	10:00～10:10	
	基調講演 作野先生	10:10～10:50	
	くるま座会議・前半戦	10:50～11:50	
	休憩	11:50～12:00	
	くるま座会議・ランチ戦	12:00～13:30	
	作野先生の移動	14:30 15:30 16:30 17:35 18:40 20:00	砺波 富山空港 富山 羽田（ANA888 便） 羽田 出雲（JAL1671 便）

3. 内容

(1) 5月22日(土)

作野先生を砺波平野に案内(屋敷林のある伝統的家屋訪問) 閑乗寺 杉森邸 入道邸

作野先生をお迎えし、砺波平野の散居村を紹介するために、俯瞰的に平野を眺められる閑乗寺に案内した。また、屋敷林のある伝統的家屋に住まう人々に会い、その生活を紹介するために、杉森邸、入道邸に案内した。

作野先生とカイニョイズム研究会のくるま座会議概要

開催日時：5月22日(土) 19:30~

参加者：作野先生、大橋、高田、高多、野村、藤井、水木、金岡

内容のまとめ

作野先生との勉強会では、研究活動の方向性や姿勢について話を伺ったと同時に、景観との付き合い方、残し方についてうかがった。

カイニョイズム研究会の活動については、「保全するところなる、破壊するところなるということをつまびらかにし、住民に問いかけ、保全と破壊の間をみんなで考える」という役割を指摘された。

また、景観との付き合い方、残し方については、「義務ではなく、美しいからというノスタルジーだけでなく、あ、本当にいいなという体験をし、残したいと思うようなエコプライドの育成」が必要であるということ指摘していただいた。

項目		内容
カイニョとの付き合い方	社会的財産としての景観	景観は、必然性がある派生したものである。失われつつあることも事実である。その中でどう付き合うか、どうアクションすべきかを考える必要がある。 景観を社会的財産、地域的財産とするなら、個人の価値観も少しずつ変える必要がある。
	エコプライドの育成	守れというから守るという消極的、義務ではなく、例えば「あ、本当にいいな」と思う体験が大事
		こころの底から「いい」と思うチャンスや可能性はいくらでもあるはず。純粋な工夫で研究会がやるべきことではないか。 押しつけではなく、住んでいる人が自然と思えるよう醸成することが必要です。切り札はない。景観への価値観が違って来る揺さぶりをかけることが必要。いいと思っている人のいいという気持ちを上げることも必要だが、それ以外の人のいいという気持ちを上げるのが求められている。
研究会活動	使命	景観を残すためには、「美しい、いいと思うこと」だけがエネルギー源だと限界がある。やはり「自分たちのために残す、守る」という意志決定が必要。 カイニョイズム研究会の使命とは、地元の人とカイニョ、カイニョイズムを結びつけることではないか。
	本来の目的	屋敷林、アズマダチ、砺波の資源を活かして何かをしたいと思っている。研究会の役割は、地元の人もここでの生活がいいなと思うようになる、再認識するためのきっかけづくりだと思っている。古いものを活かしつつ、今風の住まい方を考えることではないかと思っている。

これからの 目的	研究会の役割は、保全だとならざる、破壊だとならざるということをつまびらかにすることではないか。+と-をつまびらかにして、砺波平野の人々に問えばいいのではないか。そして、保全と破壊の間の方法をみんなで考えればいいのではないか。
活動姿勢	「自分たちにできるコト」だけでなく、正面から向き合うべき、逃げてはいけないことがある。「できるコト」だけならただのお遊びである。パーフェクトでなくても、強い哲学が必要。 目標、こうなったらいいと思う理想像を定め、自分たちが到達したい位置を決めることが必要。そして自分たちにできることは何かを話せばいい。
ビジネス化	カイニョイズム研究会でも単なるノスタルジーでなく、ビジネスとして、サービスとして提供できるといい。 工夫、産業化がビジネス化に効果的ではないか。研究会員が持っているノウハウを商売にするというのがいい。
よそものの 活用	活動によそものを迎え入れることはとても有効。大事なものは、地元の人々の感覚がわかる人であるということです、底流を共有できる人であるということが大事。
体験ツアー	許認可の問題を会員制でクリアする場合は、全体的なノリが必要。 楽しければ、おもしろければ、いいといういい案配を楽しませてもらった。うまい案配、頃合いというものはとても難しい一方で、お客さんには、その「間」みたいなものを求めるのはとても難しい。